

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	研究ゼミナールA (Seminar of Study A)		
ナンバリングコード	P31701	大分類 / 難易度 科目分野	情報メディア学科 専門科目 / 応用レベル ゼミナール
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 前期
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	P170102	クラス名	濱田研究室
担当教員名	濱田 大助		
履修上の注意、履修条件	当該科目の開講年度までに履修すべき科目を履修していることが望ましい。日本語を使用し情報システムに関する内容の講義であることから、国内における事例を理解できるようにしておくこと。講義中の電子辞書(スマートフォンは不可)の使用は許可するが、予習の時点で解決しておくことを推奨する。基本的なPCの操作(ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等)とWebによる情報収集、メールソフトの操作ができること。他人の学習意欲を減少させるとされる行為は学生・SAなどの報告により評価(減点)対象とする。		
教科書	大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康(著)、その他 都度指示 Linux標準テキスト		
参考文献及び指定図書	総務省 情報通信白書		
関連科目	オフィスアワー		

○基本情報			
授業の目的	ゼミナールは、一般的に教員と学生(少人数)で構成され、テーマにそった質疑応答を中心に報告・発表や討論、検証・実験などを行う授業とされる。通常科目とは異なり、教員と学生が双方向に意見を交わし、参加者の相互学習が促進されます。よって主体的な参加が要されます。 近年増加しているSaaSやIaaSの提供をうける側は、提供側の仕組みを理解せずともそのサービスを利用できる。しかし、電力や通信資源が乏しい環境においてはそれらの利用は制限される。近年の大規模な災害はそのような環境に変化させることが多く、環境依存のサービス利用には一定のリスクがある。また、そのようなリソース資源が潤沢な環境にあってもなお、技術的な制約やリスク要因により利用しない企業は多数存在すると考えられる。このような提供側にあるインフラストラクチャーである、サーバやパソコン、ネットワーク、マイコン・センサを把握、認識し提供側の視点を捉えることが目的として、以下のテーマを取り扱います。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ OSS ・ テーマ クライアント・サーバ ・ テーマ Unix, Linux ・ テーマ 正しい日本語、理解してもらえる日本語 ・ テーマ レポート ・ テーマ 卒業研究に向けて ・ テーマ 地域の情報産業 		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「PBL(課題解決型学習)」	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目		
実務経験のある教員による授業科目	実践的な内容とするために、クラウドやホスティングサービスで用いられるOS (UNIX, Linux) を用いる。サーバ内または、手元のPC内で稼働するソフトは、マルチプラットフォームを意識しベンダやソフトウェアメーカーに依存しないようOSSを主体とした演習内容とする。具体的にはSecure Shellを用いた各種UNIXに関連した演習を行う。可能な限り数々のLINUXや情報システムに触れ、見識を深める		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	テーマに沿ったコミュニケーションを自ら行う事ができる。スケジュール管理ができる。			20点
【知識・理解】	テーマに沿った事前学習や演習が行われ、十分理解の上ガイド無しに再現する事ができる。自己の理解度を把握し反省・改善のための方策と行動がとれる		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】	必要な情報を手に入れ、演習・検証に用いる事ができる。また、その経緯と記録をレポートとして正確に残し提出する事ができる		40点	
【思考・判断・創造】	大局の理解のみでなく、詳細を理解するための分類する事ができる。類似や差異を把握し、新たな発想・創造ができる			10点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
<p>■達成水準の目安は以下の通りです。(講義への取り組み態度として15回の講義を評価します)</p> <p>[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 / [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 / [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 / [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。</p> <p>知識・理解: UNIXの基本操作 / 技能: UNIXの操作、英語ドキュメントの理解 / 思考・判断・表現: 適切な資料の検索、取得と発表 / 関心・意欲・態度: 講義時間以外の調査・読解</p> <p>■課題のフィードバックは、直後から次回以降に講義・演習時に講評・解説を行う。期限内のものを評価対象とする</p>	

○その他	
<p>■課題・予習・復習について</p> <p>課題はIRCまたはWEBシステムにより収集する。予習・復習は、指定した資料の下読み・理解を要します。課題は講義中および復習時などに提出するものとする。提出内容に変更や追記がある場合は再提出として提出する事ができる。提出および再提出(再送信)の期限は次回講義の前日正午までとする。欠席した講義の課題については提出できない。ただし欠席届けにより当該欠席を補填される事がある場合はその限りではない。</p> <p>■出席・欠席等について</p> <p>出席・欠席の管理は情報システムを用いて行う。出席は始業ベルから15分以内までの入力に対して認定します。15分以降は遅刻30分以降の登録または未入力は欠席とします。途中退席は体調不良・就職活動の緊急連絡などに限り、特段のことわり無く許可します。途中退席が30分以上継続する場合は、早退とします。公共交通機関、大学バスの運行遅延に伴う遅刻は遅延証明により救済措置の対象とする。1週以上の報告の遅れや無報告については、救済措置の対象としない。(2コマ連続のため講義予定は週ごとに表記)</p> <p>■座席・教科書・水分補給について</p> <p>座席は自由とする。指定の場合は申し出により座席を変更可とするので、早急に相談すること。講義中の飲食は禁止とする。ただし、健康障害や重大な事故の大きなリスク要因を除去するための厚生労働省が推進する「健康のため水を飲もう」に沿う水分摂取は可とする。</p> <p>■テストについて</p> <p>試験による評価は無い。学科合同で実施するワーク等の評価が発生する際はそれを勧告する。</p> <p>■ディプロマポリシーとの関連</p> <p>情報処理、情報の創造や伝達、情報処理 技術を活用し、企業活動の各分野に従事するに足る専門知識をえるための演習を交える。具体的には、RDBMSとしてMS社のアクセスをはじめ、SQLite、PostgreSQLなど各企業等で使用するソフトウェアや、LINUXを中心としたサーバ運営など実務に即した演習により、専門知識を涵養する。</p> <p>■実務経験</p> <p>(1998年～2000年) 鹿児島ケーブルテレビ放送株式会社に勤務。社内機器および貸与機器の運用管理、制作業務および送出業務に従事。第一種電気通信事業者の認可申請業務にあたる(当時の郵政省)。インターネットプロバイダ事業に用いる機器および、放送送出機器の運営を主業務とする。SNMPで管理されるMACをデータベースを構築し管理した。併せて自社および他社のWEBサイトの構築に従事。</p> <p>(2000年～2006年) 日本文化理大学NBUメディアセンターに勤務。学内LAN、イントラネットサーバの運用管理・開発、および工学部情報メディア学科技術員として運用管理に従事。多種業務をデータベースシステムに移管し業務の効率化を図った。</p> <p>■データサイエンス関連</p> <p>データサイエンスにおけるデータの適切な蓄積および分析には、データベースの知識無くして成り立ちません。</p>	

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	研究ゼミナールA (Seminar of Study A) 濱田 大助	授業コード	P170102
学修内容				
1. ゼミナールの準備(1・2) ※講義の回数は30回です。当シラバスの詳細は、1コマで2回分の内容を含んでいます。 研究活動を開始する準備を行います。年間計画を策定します。				
予習	自ら解釈しているシステムエンジニアを説明できるように準備します			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
2. ゼミナール活動の紹介(3・4) 当研究室での過去の活動を振り返ります。また、今後のテーマ決定のための課題に取り組みます。 PCおよびサーバ等について確認し、操作できるように準備します。				
予習	教科書の0章を確認			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
3. 研究活動1(5・6) 日本語の再確認、論文の読み方・書き方				
予習	教科書の1章を確認			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
4. 研究活動(7・8) 日本語の再確認、論文の読み方・書き方				
予習	教科書の2章を確認			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
5. 研究活動2(9・10) 日本語の再確認、論文の読み方・書き方				
予習	教科書の3章を確認			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
6. 研究活動3(11・12) 日本語の再確認、論文の読み方・書き方				
予習	教科書の4章を確認			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
7. 研究活動4(13・14) 日本語の再確認、論文の読み方・書き方				
予習	教科書の5章を確認			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
8. 研究活動5(15・16) 日本語の再確認、論文の読み方・書き方				
予習	教科書の6章を確認			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	研究ゼミナールA (Seminar of Study A) 濱田 大助	授業コード	P170102
学修内容				
9. 研究活動6(17・18) クラウドコンピューティング または 仮想マシン内において、Linux操作の演習				
予習	Linux標準テキストの該当ページに目を通してください。			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
10. 研究活動7(19・20) クラウドコンピューティング または 仮想マシン内において、Linux操作の演習				
予習	Linux標準テキストの該当ページに目を通してください。			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
11. 研究活動8(21・22) クラウドコンピューティング または 仮想マシン内において、Linux操作の演習				
予習	Linux標準テキストの該当ページに目を通してください。			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
12. 研究活動9(23・24) クラウドコンピューティング または 仮想マシン内において、Linux操作の演習				
予習	Linux標準テキストの該当ページに目を通してください。			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
13. 研究活動10(25・26) クラウドコンピューティング または 仮想マシン内において、Linux操作の演習				
予習	Linux標準テキストの該当ページに目を通してください。			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
14. 研究活動11(27・28) クラウドコンピューティング または 仮想マシン内において、Linux操作の演習				
予習	Linux標準テキストの該当ページに目を通してください。			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
15. 前期のまとめ(29・30) これまでの研究室活動のまとめをします。				
予習	Linux標準テキストの該当ページに目を通してください。			約2時間
復習	本時間の振り返り、課題がある場合は取り組みの上提出のこと			約2時間
16.				
予習				約2時間
復習				約2時間